

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	准教授	吉村 美路
最終学歴	学 位	専門分野
立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科 博士前期課程修了	修士	社会心理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

コミュニケーションの知識を身に付け、社会における適切かつ良好な信頼関係を構築できる人材の育成を目的とする。

(計画)

机上の知識は最小限とし、数多くの事例紹介やワークを中心とした授業を実施することで、自ら考え行動に移す能力を養成する。社会で直面する様々な人間関係において臨機応変に対処できる能力の養成を目指す。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

コミュニケーション技能、ビジネス実務総論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ

(後期)

プレゼンテーション技術、キャリアデザイン、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

講義型・演習型授業ともに、『アクティブ・ラーニング』を取り入れた講義を展開している。学問に対し、知識と現実の世界をリンクさせ、自律して思考できる事を目指した。

講義型授業では、習得した知識を現実社会で活用できるよう、毎回テーマに沿った多くの事例を紹介するよう努めた。自ら学んだ知識を「社会でどのように生かすか」をイメージしながら、学びを進められるようになることが目的であった。講義では、学生同士のワークや心理検査なども多く取り入れ、学生自ら手を動かしながら学ぶ姿勢を大切にした。

演習型授業では、学生の主体性を尊重する姿勢を基本とし、ある程度の枠を設定しつつも、その中で学生自らの「やってみたい」「できるかも」の気持ちを大切にした。課題実践の際、少ない予算の中で学生が最大の利益を出そうと努力していたこと、教員の想像を超えたアイデアを考え実践できていたことは、若者の可能性という点で大いに感動させられた。

○作成した教科書・教材

学生配布資料および課題資料作成、講義 15 回分の PPT の作成。

○自己評価

目標としていた基準は、概ね達成できたと考えている。自己評価の基準として、毎回の授業で実施しているミニレポートと授業評価アンケートを参考にした。

ミニレポートでは、その日の学びが自身の未解決だった経験を理解するヒントになるか、これまで興味なかった企業や働く人について、新たな視点は生まれたかなど、学びについて「当事者意識」を持たたかどうかを評価基準とした。レポートの回答内容は、初期段階では、「その日学んだこと」をそのまま記載する学生が大半であったが、授業も後期になると自身の過去の経験を

ひとつの現象として客観的に捉え、知識を生かしながら前向きに向き合える等、自身で考え冷静に判断する視点が生まれてきたことは、大きな成長と考えられた。

授業評価アンケートの結果も、概ね全体の平均を上回る結果であった。

II 研究活動

○研究課題

わが国におけるライフイベントから見た女性の労働意欲の推移について

○目標・計画

(目標)

日本における結婚・出産を挟んだ女性の労働力は、主要国の中でも韓国に次いで低い数値を更新し続けている。本研究ではこの状況の改善を目的に、キャリアを離れた女性の就労意欲の調査およびその原因について分析を行う。わが国の女性を取り巻く文化や社会の仕組みや支援状況等を併せて調査しつつ、今後の対策について考察する。

(計画)

- (1) キャリアを中断している女性に対する就労意欲調査を WEB 調査により実施
- (2) 都道府県別女性の就業率と女性に関するキャリアの意識調査実施

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・ 吉村美路 【教材】厚生労働省『若年者雇用支援研修教材』ビジネスマナー・メンタルマネジメント項目 2013年10月～2017年3月採用。
- ・ 吉村美路 『古文書現代文訳：ボランティア受入れマニュアル』マニュアル・規定，一般社団法人近現代史データベース 2015年9月～現在。

(学術論文)

- ・ 吉村美路・松隈美紀・手嶋康則，「第4回福岡マラソン2017におけるアクティブラーニングの効果ーモチベーションと自主行動を考えるー」，平成31年度中村学園大学・短期大学研究紀要，51号，2018年3月。
- ・ 吉村美路，「全国の家系系ごみ有料化の導入状況と有料化による減量効果・課題について」，三菱総合研究所グループ報告レポート，2015年1月。
- ・ 吉村美路，「我が国における女性再雇用の可能性に関する調査」，独立行政法人労働政策研究・研修機構，K56，2014年12月。

(学会発表)

- ・ 中村千聖・高垣怜佳・加藤亮太・吉村美路，「地域との相互理解を目指した実践的取り組みの報告ー地域保育園における協働制作を通じたコミュニケーション活動ー」，2019年度日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会，金沢星稜大学，2020年1月。
- ・ 吉村美路，「日本の女性におけるワーク・ライフ状況の俯瞰的考察」2019年度日本コミュニケーション学会九州支部大会，福岡女学院大学，2019年11月，
- ・ 吉村美路，「プロジェクトチームにおけるモチベーションの推移ーリラックス値との相関関係についてー」，2018年度第34回産業・組織心理学会全国大会，名古屋大学，2018年9月。
- ・ 吉村美路，「大学生における対人関係重要度に関する意識調査」，2018年度第60回日本教育心理学会，慶應義塾大学，2018年9月
- ・ 吉村美路，「ストレス状態における食嗜好性の差異について *The difference of food preference of stress condition*」，2017年度第24回日本行動医学会学術総会，聖路加国際大学，2017年

12月.

(特許) なし

(その他)

<共同研究会発表等>

- ・川越愛里・吉村美路,「名古屋の農業の持続可能性についてー実践に学ぶ体験型学習ー」,2019年度九州共立大学×愛知東邦大学「地域を考える研究会」,九州共立大学,2020年2月.
- ・吉村美路,日本コミュニケーション学会九州支部ニューズレターNo31.P9-10,2018年7月.

<講演・講師>

- ・吉村美路,「学生がやる気になるコーチング」,2018年度看護教員継続研修 公益社団法人福岡県看護協会,2018年8月.
- ・吉村美路,「勘違いする脳ーコミュニケーションの不思議ー」,2017年度第44回市民公開講座Aコース,中村学園大学・短期大学,2017年9月.

<プロジェクト企画・運営>

- ・中村学園大学×三井物産×電通 産学連携プロジェクト,「第4回福岡マラソン2017協賛事業」企画・運営,2017年5月~11月.
- ・中村学園大学×レアジョブ英会話 産学連携プロジェクト,「目指せ海外留学プロジェクト」,英会話上達とモチベーションの相関関係に関する調査プロジェクト,企画・運営,2017年5月~2018年8月.
- ・中村学園大学×三井物産東京本社 大学生向け企業見学スタディツアー(2泊3日),企画・運営,2017年8月.

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・令和2年(2020年度)科学研究費補助金 基盤研究(C) 新規,研究代表者 申請中
- ・令和2年(2020年度)日本ビジネス実務学会研究助成 個人研究(B) 採択

○所属学会

日本心理学会、日本教育心理学会、産業・組織心理学会、日本コミュニケーション学会、日本ビジネス実務学会

○自己評価

本年度は2本論文を投稿し、現在査読中である。内1本は博士論文に関連するテーマであり、多角的に分析を実施した。この2本は、2020年度の掲載を目指す。その他、現在プレ調査を実施している段階の研究1本、前述の研究も含めいづれもWebマーケティング調査を軸としている。2020年度は身体反応を測定に含む、AI調査を実施したいところである。AI調査はかかる費用も大きく、外部資金の採択の有無により実行可否が決まる為、現段階で計画を進行できない点は不安要素である。いづれにしても、本年度は掲載まで至らなかった点で目標は未達成といえる。次年度は本年度掲載に至らなかった論文含め、しっかり取り組みたい。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

全学委員会ではキャリア支援委員としてその職務を果たし、大学運営に貢献する。

(計画)

キャリア支援委員会では、定例会議加え名古屋市内にて実施される2019年度愛知中小企業家同友会インターンシップに参加し、地元中小企業の現状把握および情報共有に努める。

○学内委員等

キャリア支援委員会委員

○自己評価

本学の就職支援や学生の就職状況等の把握に努めた他、経団連の規定の変更や内定率の推移など外部の情報に対する今後の対策を委員会で検討するなど、問題解決・防止に努めた。後期からはキャリア支援委員であった浅野先生ご退職に伴い、経営学部のキャリア支援委員が1名となり、経験不足の感が否めなかった。特に2020年度事業計画作成等に関しては、学部長・学科長にご相談し、ようやく作成できた状態であった。学内の業界研究会や、2019年度愛知中小企業家同友会インターンシップでは、他大学の教員や名古屋の中小企業経営者の方とディスカッションし、名古屋の就職事情について情報交換ができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

教員として優れた人材の育成に努めるとともに、研究者として研究成果を社会に還元する。

(計画)

活きた知識の習得を目指した教育方法の開発と、学会を通じ研究成果を発表する。

○学会活動等

一般社団法人近現代史データバンク 顧問

日本コミュニケーション学会九州支部副事務局長

○地域連携・社会貢献等

- ・「農業ボランティアへの参加」：高齢化の進む名古屋市農家にて、学生と共に大根・キャベツの収穫補助を実施した。名古屋市天白区，2019年12月。
- ・「学内保育園にて保育体験を実施」：地域施設と教育機関の連携推進を目指し、学び合い補い合う関係の構築を目指した。名古屋市名東区，2019年10月。
- ・「病院管理栄養士インターンシップ」，大学1年次インターンシップ企画・運営，社会医療法人福岡青洲会病院，2017年8月。
- ・「理化学試験分析施設インターンシップ」，大学1年次インターンシップ企画・運営，株式会社BLOOM，2017年8月。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・九州大学大学院博士課程に在籍し、研究活動に研鑽している。
- ・自由民主党女性局「女性未来塾」にて、日本女性の現状について情報の共有・更新につとめている。
- ・放送大学にて「社会統計学」を受講し、知識の更新に努めた。

VI 総括

本学での勤務初年度であり、教育・大学運営・研究・社会貢献の4領域において、バランスが掴めなかった感が残った。授業においては、前任校にて2年の経験があり、学生の反応も概ね良好であった。一方で、PC必携化の学科で構築した授業構成を、紙ベースの講義に変更することは難しく、特にPCがあることを前提として構築した演習授業では苦勞した。学生の学会・研究会への参加については、積極的に推進し挑戦する姿勢を促した。研究活動については、掲載まで至らな

かった点で落第点の年度であったと認識している。次年度は特にこの点を改善していきたい。

以 上